

# おもてなしの心でご案内

「観光ボランティアガイドつるが」は、平成23年に発足。当時、敦賀市に4つあったボランティアガイド団体が統合して誕生しました。

■多い関西・中京の観光客  
会員は40歳代から70歳代まで

の男女35人。現役で働いている人も、定年後に参加した人も

ます。

ガイドの依頼があると、来訪者の要望や人数などに応じて会員を派遣。

見学希望先では気比神宮が多く、神宮から港界隈というのが代表的なコース、気比の松原をメインに水戸烈士ゆかりの松原神社や西福寺などを巡るコース、松尾芭蕉の足跡を訪ねるというコースも人気だそうです。

来訪者は大阪、愛知など関西、中京からが多く、ガイドする客数は花換祭のある4月が断トツ。会員が金ヶ崎に常駐して対応にあたっています。

## ■大事な話し方や表情

会員は日ごろから歴史・文化などの知識の習得に努めていて、学んだ知識は2冊の小冊子にまとめられています。

ガイドには話し方や表情も大事。小中学生には、その世代に適した話し方があるように、ガイドする対象によって説明の仕



方も違ってきます。こうした研修も欠かせません。

外国人も観光に訪れますが、会員には英語に堪能な人も。他の会員は、この会員から英会話を習って備えています。

## ■オールラウンドプレイヤーへ

これからは、気比神宮など特定の観光地の案内ができるだけでなく、市内のどこでも案内できるというガイドを目指しています。いわばオールラウンドプレイヤーです。

さらに舞鶴若狭自動車道の開通、今後の新幹線延伸などもある。将来は嶺南全域、福井県全体を案内できるガイドを視野に入れていきます。

## ■若い世代の観光学習を支援

会では通常のガイド以外の活動にも取り組んでいます。

一つは、市内の小中学生、高校生の観光学習などのサポートです。小中学生では、校外学習に付き添って歴史や文化を説明。高校生が市外の人に敦賀を案内した時には、案内の仕方の

指導などを通してサポートしました。また、一般市民向けにはバスツアーを企画。鉄道をテーマに話を聞いたり見学をする「鉄道カフェ」も開催しています。そして、こうした会の活動を知ってもらうため広報誌「ゆりかもめ」を定期的に発行しています。

## ■わがまち敦賀への関心

会長の大道正明さんは、「生まれ育った敦賀には、どんな歴史があったのか」と学びだしたことが、この会へ入るきっかけでした。会が運営に関わっている「観光つるが検定」に合格したことで入会した人もいます。

## ■やはり、おもてなし

また、大道さんは「観光先での印象は、そこで出会った人の言葉遣い、笑顔などの行動に大きく左右されます」として、おもてなしの心はガイドの重要なポイントだと話します。そして「敦賀の町が好き、歴史が好き、人に接するのが好き、話すことが好き。そういう方たちは是非入会を」と呼び掛けています。

観光ボランティアガイドつるが  
問い合わせ

①事務局 TEL 21-0056  
②敦賀観光協会 TEL 22-8167

広報誌「ゆりかもめ」



ガイドする会員（「人道の港 敦賀ムゼウム」で）

## 観光ボランティアガイドつるが